

R7 学校教育自己診断 結果を受けて総括

今年も、生徒・保護者・教職員それぞれにおいて学校教育自己診断を実施いたしました。数多くの貴重なご意見をありがとうございました。

個人的なご指摘以外は、全教職員にて拝見させていただきました。校内各部署にて意見交換を行い、以下のように学校として今年度の総括および次年度に向けた課題をまとめました。

なお、個別のご質問などにお答えしますとかなりのボリュームになりますので、総括では全体的な分析結果を公表させていただきます。ご了承くださいますようお願いいたします。

皆さまのご意見を伺い、次年度に向けての本校の課題を3つに整理してみました。

1 学校の取組や教育活動が、保護者に十分伝わりきっていないこと

①現状の整理

生徒アンケートおよび教職員アンケートでは、授業改善、生徒指導、ICT活用、進路指導等について高い肯定的評価が見られる。一方、保護者アンケートや記述回答では、「学校で何をしているのか分かりにくい」「取組はしているようだが、実感として伝わってこない」といった声が複数確認された。

②課題として捉えられる点

- ・学校が実施している教育活動や成果が、保護者に十分可視化されていない。
- ・配付物やホームページ等の情報が断片的で、学校全体の方向性や意図が伝わりにくい。
- ・情報発信が「伝えている側の視点」にとどまり、「受け取る側の分かりやすさ」に十分配慮されていない可能性がある。

③課題整理のまとめ

本校の教育活動そのものではなく、「伝え方」「見せ方」に課題があると考えられる。保護者が学校の取組を理解し、安心して子どもを預けられるよう、情報発信の在り方を見直す必要がある。

(改善の方向性)

学校で行っている教育活動や生徒の成長の様子を、保護者が具体的にイメージできる形で発信する。

(主な取組の視点)

- ・行事や日常の教育活動について、成果や意図が伝わるよう、発信内容の工夫を進める。

2 生徒指導・学校運営に対する納得感や共通理解に、立場による差が見られること

①現状の整理

生徒アンケートでは、生徒指導や教職員の連携について肯定的に捉えている割合が高い。一方、保護者記述では「指導の理由が分からない」「学校の判断基準が見えにくい」といった意見が見られた。また、教職員記述においても、分掌・学年間の連携や学校運営への意見反

映に課題を感じている声が確認された。

②課題として捉えられる点

- ・学校方針や指導の背景が、生徒・保護者・教職員の間で十分に共有されていない。
- ・生徒指導や学校運営について、立場によって受け止め方に差が生じている。
- ・教職員間でも、学校全体としての共通理解が必ずしも十分とは言えない部分がある。

③課題整理のまとめ

学校としての判断や方針そのものではなく、その「共有の仕方」「説明のあり方」に課題がある。学校内外で共通理解を形成し、納得感を高めていくことが求められる。

(改善の方向性)

生徒指導や学校運営に関する方針・判断の背景を丁寧に共有し、生徒・保護者・教職員が共通理解をもてる学校づくりを進める。

(主な取組の視点)

- ・教職員間での情報共有や意見交換の機会を大切にし、学校全体としての共通理解を深める。
- ・生徒や保護者の受け止めに踏まえながら、説明や伝え方の在り方を継続的に見直す。

3 教育相談・いじめ対応などの体制が、十分に「見える形」になっていないこと

①現状の整理

生徒アンケートでは、相談体制やいじめ対応について高い肯定的評価が得られている。一方、保護者アンケートや記述では、「相談体制を知らない」「困ったときにどうすればよいか分からない」といった声が一定数見られた。教職員記述からは、日常的に丁寧な対応を行っているものの、その取組が十分に伝わっていないという認識がうかがえる。

②課題として捉えられる点

・教育相談やいじめ対応の仕組みが、保護者・生徒にとって分かりやすく整理・周知されていない。

- ・対応の流れや相談先が明確にイメージできていない家庭がある。
- ・学校側の取組と、保護者の認識との間に情報のギャップが生じている。

③課題整理のまとめ

体制そのものは一定整備されているが、それが十分に「見える化」されていないことが課題である。安心して相談できる学校であることを、より分かりやすく示していく必要がある。

(改善の方向性)

既に整備されている教育相談・いじめ対応体制について、その内容や流れを分かりやすく示し、安心して相談できる学校であることを明確にする。

(主な取組の視点)

- ・日常的な対応の積み重ねが伝わるよう、学校としての姿勢や体制を適切に発信する。
- ・教職員間で対応の確認や振り返りを行い、組織的な対応の継続的な充実を図る。

【まとめ】

令和8年度に向けては、新たな取組を増やすことよりも、これまで行ってきた教育活動を丁寧に整理し、「伝える」「共有する」「見える形にする」ことを重視した改善を進めていくことが重要である。生徒・保護者・教職員が同じ方向を向き、安心して学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。